

言語文化学科		教授	呉 浩東	大学院の授業担当 有
教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	学生の授業参加意識の向上の取り組み	1998年～現在	授業においては学生の授業参加への意欲を高め、授業科目への関心と興味を持たせることに意識した。具体的には、身近な出来事を例にとりて授業内容をよりわかりやすく説明することに努め、毎回学生に授業内容に関する小テストや小レポートを課して授業への参加意識を高めることに心がけた。	
2	レベルの違い学生のニーズに応じるための方策		情報系科目において知識と技能の両面で学生のレベルがかなり違う。その問題を対処するため、下記の4点に工夫した。①学生に予習・復習を徹底すること。②理論と実践との融合、知識と技能との融合の教育方法を積極的に開発と導入すること。③学生の理解が次第に高まっていると自ら実感させることによって達成感を得ること。④学生の状況を把握し、教える内容の取捨選択を十分した。学生のつまづきやすい箇所を把握し、教え方を工夫するよう努力した。	
3	学生の質問を聞きだす工夫		授業への関心を引き付けるため、要点ごとに質疑応答の場を設け、こちらからも発問して議論を行った。また、学生から気楽に質問し、丁寧に答える環境作りが心がけられた。情報獲得・整理技術、WEB資源の活用技術に習得させ、授業時間外の個別指導も行った。	
4	学生による授業評価の活用		毎学期授業終了後に行われる授業評価アンケートの受講生からのフィードバックに基づいて授業内容の理解状況と授業方法が適切であるか否かを確認し、次学期以降の授業内容と授業方法の改善に役立つよう努めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
1	補助教材の作成		時代の変化と学生のニーズに対応し、教育内容の更新に心がけ、補助的な教材の作成に工夫した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)				
年月日		活動内容		
1994年12月～現在		情報処理学会会員		
1997年1月～現在		ACL学会会員		
1998年4月～現在		言語処理学会会員		
その他				